

**週刊新社会**

発行所：新社会党  
〒101-0051 東京都千代田区神保町2-10 三辰工業ビル3F  
TEL 03 (6380) 9960 FAX 03 (6380) 9963  
振替 00140-0-149727 1ヵ月700円 郵送料 1ヵ月164円

# 新社会千葉

2023年12月 254号

発行：新社会党千葉県本部

千葉市中央区新田町7-5 石出ビル3F  
TEL 043-244-6865 FAX 043-244-6864  
E-mail:sinsya@lily.ocn.ne.jp  
HP URL:http://shinsya-chiba.sub.jp/



いかに戦争を回避するか 真剣に聞き入る参加者たち

## ガザ 虐殺やめろ

武力で平和はつくれぬ - 新社会党が千葉駅頭宣伝



ガザに自由を 虐殺やめろ 11月16日千葉駅頭で訴える

### 戦争不安の時代こそ回避の道筋を

活かせ憲法・市原市民連絡会が講演会

「生かせ憲法・市原市民連絡会」(略称「市原9条の会」)は11月11日に柳澤協二氏(9年間で4人の首相のもと内閣官房副長官補として安全保障・危機管理を担当した元官僚)を迎え、「非戦の安全保障論」・「戦争不安の時代こそ、戦争回避の道筋を！」というテーマで講演を受けまし

「生かせ憲法・市原市民連絡会」(略称「市原9条の会」)は11月11日に柳澤協二氏(9年間で4人の首相のもと内閣官房副長官補として安全保障・危機管理を担当した元官僚)を迎え、「非戦の安全保障論」・「戦争不安の時代こそ、戦争回避の道筋を！」というテーマで講演を受けまし

「生かせ憲法・市原市民連絡会」(略称「市原9条の会」)は11月11日に柳澤協二氏(9年間で4人の首相のもと内閣官房副長官補として安全保障・危機管理を担当した元官僚)を迎え、「非戦の安全保障論」・「戦争不安の時代こそ、戦争回避の道筋を！」というテーマで講演を受けまし

「10分に1人の割合で子どもが死んでいる。ガザ医療は崩壊寸前だ」世界保健機関(WHO)のテドロス事務局長の言葉だ。

### 通りがかりの外国人も加わって

中東のカサ地区ではイスラエルの侵攻によってインフラ設備、住宅、退避路、避難所でもある学校、病院まで攻撃され、ほとんどの住民が、生きる術を奪われていく。犠牲者は死者だけでも1万人を越えている。

欧米諸国はハマスの「テロ攻撃」を非難し、この解消こそが必要で、欧米の二重基準は許されない。

「ガザに自由を」など配布するチラシの受け取りも思いのほか良かった。「虐殺やめろ」

### 年末カンパのお願い

記号番号：振替 00120-3-155433  
(当座：〇一九店 155433)  
新社会党千葉県本部

「我々は動物を相手にしている」と、イスラエル国防大臣。戦争は殺し合いだ。兵士に相手は人間ではないと思ひこませるのが軍の常。だからこそ躊躇なく引き金を引けるのだ▼アジア・太平洋戦争では米軍が日本兵をイエローモンキーと言ひ、日本軍が人体実験で中国人等を「マルタ」と称したが、それにしてはイスラエル、あまりにも蛮行が過ぎる▼SNSの中では、「共産党の連中」とか「左派の奴らは外国と結託して日本を貶める反日勢力だ」などと書く人達がいる。その愛読月刊誌に「政治に中立はない。敵か味方かだ」とあった。だから「左派」の新社会党は同じ国民ではなく、「敵」なのだろう▼当然にも「奴ら」との話し合いなど成り立たず敵対感情が増殖、社会の亀裂が深まってゆく。そして「奴ら」等と言う意識は、人間を「動物」視する意識に通底している。一月から担当した本欄、こんな嫌な話で一二月、せめてご自愛を。

【市原・星野】



乾杯のあと大いに楽しむ参加者たち



パネルディスカッションで意見を述べるパネラーたち

# 共生社会をつくるには

## 平和を願う市民のつどい実行委員会が講演会

11月19日、千葉市生涯学習センターホールで第15回平和を願う市民のつどいを開きました。フォトジャーナリストの安田菜津紀さんを迎え、講演とパネルディスカッションで、どうしたらさまざまな外国から来た人々と「共に生きる」社会をつくれるか、お話を伺い語り合っていました。

スクリーンに映し出された破壊された街ガザ。この1カ月弱の間にイスラエルの攻撃が無残でした。

11月11日に横芝光町で新社会党山武・長生支部が主催する「新社会まつり」が30人を超える参加者のなか開催されました。

主催者を代表して支部長の木内國司さんは「核兵器を威嚇材料にウクライナに侵攻するロシア。パレスチナとイスラエルの大規模な軍事衝突。いずれも人殺しが止まりませ

世界各地から難民として日本に逃げてくる人々に対して、2021年の難民認定74人0.7%という低い数字。「なぜウクライナほど関心を集めないのか」という声。報道の格差が支援の格差となり、「入国管理」に理不尽な差別が存在し、「難民認定」されず日本で生まれた多くの子どもが無国籍となっている日本。

在日コリアンに対して終戦後から始まった、特定の外国人を入

権の主体・生活の主体と見ず、管理・監視・治安維持の対象とした政策、なくならないヘイトスピーチ・ヘイトクライム。それは、在日二世の出自を語れなかった安田さんの父親にも亡くなるまで苦難を強いてきたものであり、語られた言葉は痛烈でした。

パネルディスカッションでは、千葉朝鮮初級学校の教員、中国人で市原市の小中学校の日本語指導員、千葉大学移民難民スタ

ディーズ研究員の3人の方から仕事・活動内容・課題が語られ、多文化共生社会に向けては、まず、子どもたちの目をそのままを見てほしい、一方的な支援・教育ではなく、み

### 四季へのいざない

ラジオより昭和メロディー年用意

水明

「年用意」は、新年を迎えるための様々な準備。餅搗き、床飾り、松飾り、春着の支度等、せわしい中に新年を待ついそいそとした気分がある。又、地域によっても「年用意」の様は変わるが、その習わしは大事にしたものである。しかし、大掃除などは気ばかり焦りなかなか取り掛かれないのが、毎年のこと。さて、読者諸兄弟の家では、いつ頃からこの「年用意」に取り掛かるのだろうか。



年齢を重ねて来ると身体に具合が悪い所が出てくる。

医療を受けていても、自宅で暮らしている時に、急変したらどうしようかと不安になる。私自身予約に従い通院し、完全な身体ではないが、幸いにも医療の恩恵を受けて不自由なく暮らしている。

しかし二世世代同居の家族は、日中は仕事で不在だ。その時に一人で自宅にいるときに、急変したらどうしたらよいか、対策を準備していない。

最近近くに住む70代の女性が亡くなった事を聞いた。彼女は急変に備えて、入院していたようだ。一人暮らしをしていても、姉妹とも行き来をしていなかったらしい。人間ひとりですまれる事も死ぬこともできないと痛感した。

## 年を重ねて思うこと



身近に放置家屋がある。いま全国で問題になっているが、十年以上放置された家、瓦屋根は丈夫そうだが、建具はボロボロ、植木は伸び放題。その家の前を通るたび何とかならないのかと心を痛めている。家を建てたときの喜びを戸主は味わったのだろうか。事情で放り出してどこかへ行ってしまった。生活基盤を移さざるを得なかったのだろうか、住む必要がなくなったなら、直ちに処分すればよいものを、放置するのは許せない。建て主は固定資産税を滞納しているのだろうか。でも一方では、ローンは終わったのかどうか、どんな事情があったんだろうなども考えられる。

行政として対処することは出来ないのだろうか。道幅は狭く、崖条例にも関わる土地ではどうしようもないのだろうか。

【佐倉市・川口弘子】

### 官房機密費

石川県知事が注目されているが、官房機密費って何。

貧しい人がいっぱいいるのに、こんな許せない。ごまかしばかりで説明もしない。こんなことで政治と金も断ち切れないし、言論の自由もつぶれちゃう。野党は厳しく追求してほしい。

【市民連合参加者】

## 「週刊新社会」は社会の出来事を的確に示している

### 党山武・長生支部が「新社会まつり」を開催

11月11日に横芝光町で新社会党山武・長生支部が主催する「新社会まつり」が30人を超える参加者のなか開催されました。

主催者を代表して支部長の木内國司さんは「核兵器を威嚇材料にウクライナに侵攻するロシア。パレスチナとイスラエルの大規模な軍事衝突。いずれも人殺しが止まりませ

と共に反戦平和の声をデモ行進で大きな声で訴えてきました。平和憲法の第9条。人間らしさを保証する第25条

のんびり、ゆっくりでも前に向かって歩きましょう。美しい草花を咲かすためには、種まき、移植、定植、肥料、

天候状態や水やりなどを闘うしかありません。やはり地域からやさやかな闘いでも諦めないでいきましょう。

見据えた覚悟が大切です。そして闘い続ける

みながら和太鼓「一宮東浪見子どもお囃子神楽」の演奏に感動し、カラオケで自慢の喉を披露し、締めはビンゴゲームで盛り上がりました。参加者からは「週刊新社会は難しいけど社会の出来事を的確に示してくれ